

✈️ 海外生活 だより

シンガポール事務所

City in a Garden 緑の中で暮らす心地よさ

(財)自治体国際化協会シンガポール事務所所長補佐
宮崎 文崇 (佐賀県派遣)

1人当たりのGDPが日本よりも高く、東南アジアのハブ機能を有する都市として圧倒的な存在感を放つシンガポール。この国では東京都23区とほぼ同じ大きさの国土に約530万人（うち150万人が外国人）もの人が暮らしており、非常に人口密度が高くなっています。市街地を中心として高層のホテルやビルが立ち並んでおり、都会的なイメージが強い一方、政府主導で「City in a Garden（緑に囲まれた都市）」を目指した緑化政策が行われています。

快適な環境で外資を誘致

1965年にマレーシアから分離する形で独立したシンガポールは、国土も狭く資源も乏しかったため、独立当時はさまざまな問題を抱えていました。

とりわけ雇用の問題は深刻なものであり、解決策として外資の積極的な誘致により活路を見いだそうと試みました。そこで、外資の誘致をするにあたって重要視したのが緑豊かで快適な労働環境の整備、すなわちガーデンシティの実現でした。外資を呼び込むためには、人々が住みやすいクリーンな社会環境が整っていることが重要であり、またシンガポール人にとっては暮らしやすい環境を整えることで、自分たちの帰るべき場所であるといった帰属意識を醸成することが必要でした。

政府が主導して緑化政策を組み込んだ計画的な都市開発を行った結果、シンガポールは緑豊かな、人を引きつける魅力的な都市へと発展を遂げました。

現在でも緑化事業は重要な政策と位置付けられており、City in a Garden構想を掲げ、これまでの取り組みを発展させる形で緑の中にある心地よい都市づくりを目指しています。

Must Go!

シンガポールのおすすめガーデン

シンガポールの緑化政策のメインの一つが公園です。国内には大小さまざまな公園や庭園が整備されており、それらの情報や園内で楽しむことができるアクティビティについては、国立公園庁(National Parks)のホームページで紹介されています。

ここで、シンガポールの誇る公園など、おすすめ癒やしスポットを紹介したいと思います。

(1) ボタニックガーデン

シンガポールのアイコン的な公園であり、国内随一の繁華街であるオーチャードから近い場所にあります。アクセスも便利で、地下鉄(MRT)のサークルラインのボタニックガーデン駅が最寄り駅です。



ラン園の入口にある美しい噴水

園内にはヒーリングガーデンやジンジャーガーデン、エボリュションガーデンなどテーマごとに分かれた庭園があり、日本語の案内板も設置されています。

休日には地元の人々が集まる憩いの場となっていますが、園内にあるラン園は旅行ガイドなどにも紹介されており、外国人観光客も訪れる人気の観光スポットとなっています。おしゃれなレストランや、ローカルのフードコートが併設されているため、ゆったりと時間を過ごす場所として最適です。

また、65万種類以上の植物標本を備えており、教育や研究を目的とする熱帯植物研究所の役割も果たしています。

敷地面積が非常に広いため、1日ですべてを回りきるのは大変ですので、事前に見どころを抑えてから行くことをおすすめします。

(2) チャイニーズガーデン

中心市街地から地下鉄で約30分の場所にあるチャイニーズガーデンもおすすめのスポットの一つです。最寄り駅である東西線のチャイニーズガーデン駅から徒歩ですぐのところであり、こちらもアクセスしやすい場所にあります。



ゆっくりと時間が流れるチャイニーズガーデン

ここは中国の皇居の庭園や建物を模した公園で、台湾の著名な建築家により設計されました。広大な敷地面積の中には展望台となっている塔をはじめさまざまな趣のある建物や、中国から輸入された1,000もの盆栽、鯉の泳ぐ池があります。

市街地から離れていることもあって、休日でもそこまで人は多くないため、日常の喧騒けんそうを離れて一息つくことができる贅沢な癒しのスポットです。

(3) ブキティマ自然保護区

シンガポールで最高峰となる標高163.63mの山に登ることができます。地下鉄の駅が近くにならないため、バスもしくはタクシーを使っていくことになります。

山頂までのトレイルはいくつかのルートに分かれており、最短のものでは1.2kmから最長のもので1.9kmとなっています。最短のルートを選ぶと約1時間半で麓から山頂まで往復できますので、シンガポールに来られた際には記念に挑戦されてみてはいかがでしょうか。

ただし、標高はさほど高くないため、山頂からの眺めを期待すると……。

隠れ家的な緑化ゾーンも

シンガポールでは公園や沿道の緑化に加えて、建物の外壁や屋上などの緑化政策にも取り組んでおり、国土が限られているがゆえにできる限りのスペースを使うための活用策が打ち出されています。例えば医療センターの上階層に吹き抜けを利用した隠れ家的な緑化ゾーンがあります。いったんそこに足を踏み入ると緑に囲まれた空間が広がっており、すぐ横にはカフェが併設されているため、休日の朝などのゆっくりしたい時間に、遅い朝食を取りに来る人々でにぎわう場所となっています。



建物の中の緑化ゾーン

田園風景の広がる暮らしから一転、東南アジアでも都市化の進んだシンガポールに赴任することになり、建物に囲まれて都会に暮らすことに最初は不安もありましたが、緑に囲まれた暮らしは想像していたよりも快適なものでした。

緑化の手法もさまざまなものがあり、思わぬ場所にまで緑化が行き届いているといった新しい発見が日々あるので、今後もいろいろな場所を散策しシンガポールのユニークな緑化を発見していきたいと思います。